

挨拶

突然ですが、僕は今月の目標である「挨拶」が、魔法のような力を持った言葉だとおもっています。

みなさんは、朝の校門や廊下で挨拶を交わすとき、どんなことを考えていますか？「決まりだから」「相手が言ったから」という理由で、反射的に口を動かしていませんか？しかし、挨拶という漢字の成り立ちを調べると、そこには深い意味が隠されていました。

「挨」は「心を開いて近づく」、「拶」は「迫る、触れ合う」という意味を持ちます。つまり、挨拶とは単なる形式的なものではなく、「私はあなたの存在を認めていますよ」「あなたの敵ではありませんよ」というメッセージを相手に届ける、心のコミュニケーションなのです。

私自身、授業や部活動で生徒のみなさんと接する中で、挨拶はすごく大切だなと感じることがいっぱいあります。例えば、少し落ち込んでいるような表情の生徒に「おはよう」と声をかけたとき、小さくても返事が返って来ると、それだけで少しだけ心の距離が縮まったような気がして、僕自身もすごく嬉しい気持ちになります。

中学生という時期は、時に素直に言葉を発するのが照れくさかったり、人間関係に悩んだりすることもあるでしょう。でも、そんな時こそ「挨拶」を味方につけてみてください。難しい敬語や気の利いたセリフは必要ありません。相手の目を見て、届く声で言葉を交わす。その積み重ねが、クラスや学校という集団を、居心地の良い場所に変えていくはずですよ。

「おはよう」「さようなら」「ありがとう」。
これらの言葉を、ただの音としてではなく、相手への敬意を込めた一文字一文字として大切に扱ってみませんか。一人の心のこもった挨拶が波紋のように広がり、この学校がより温かな場所になると思います。

年 組 番 名前